



目次

まえがき iv

ミステリー小説をフェアクラフ理論によってメタ分析する 石上 文正.....	1
企業のウェブページにおける批判的談話分析 高木 佐知子.....	37
<i>New York Times</i> の英日 Royal Baby 誕生報道記事の比較 —伝達、インフォーマル化、ナラティブの観点から— 相田 洋明.....	61
豪紙 <i>The Age</i> の社説に見られる説得戦術 —オーストラリア社会における庇護希望者の問題— 仲西 恭子.....	81
五輪サッカー報道にみられるジェンダーとナショナリズム —2012年ロンドン五輪の新聞記事分析— 富成 絢子.....	103
社説記事では少子化「問題」がどのように語られているのか —スタイル (styles) に焦点をあてて— 稲永 知世.....	139
高校の英語教科書をディスコース分析する 石上 文正.....	175
索引	205

まえがき

私たち6人の執筆者は、日本メディア英語学会メディア英語談話分析研究分科会に所属している。この分科会は、2002年11月29日に第1回目の研究会を開催して以来、すでに14年弱活動してきていることになる。これまでに、分科会として、『批判的談話分析(CDA)の手法と展望——イラク関連記事の分析を中心に——』(社団法人日本時事英語学会談話分析研究分科会)を2005年に刊行、2012年には、『ディスコースを分析する——社会研究のためのテキスト分析——』(ノーマン・フェアクラフ著、くろしお出版)を翻訳刊行した。この理論書の翻訳を機に、私たち自身の実践編を出版しようという機運が盛り上がり、数年の準備を経て、なんとか出版にこぎつけることができた。

今回収録されている論文は、執筆者が分科会で発表し、メンバーのさまざまな意見や批判を吸収した結果である。その意味で、各論文は、個人の執筆ではあるが、メンバーのさまざまな考えが集約されたものでもある。ただし、当然ではあるが、各論文の文責は各執筆者に帰する。

ことばは、他者と理解しあうための道具だが、嘘をつき、真実を隠すためにも用いられている。それも無意識的に行われる場合が多い。この論文集は、さまざまなメディアがことばを用いて構築している“現実”が、いかなる姿をしているのかを、批判的談話(ディスコース)分析の手法、とくにフェアクラフの理論を用いて明らかにしようとする試みである。

本書は、フェアクラフの『ディスコースを分析する——社会研究のためのテキスト分析——』の章立て構造にならって、基礎理論、ジャンル、ディスコース群、スタイルの順にほぼ配置してある。下記の論文タイトルの後の括弧内の表示は、どの領域の分析が主要であることを示している。なお、ジャンルに焦点を当てた論文はないが、ジャンルに言及しない論文がないということではない。ここで、収録されている7論文を要約しておこう。

石上論文：「ミステリー小説をフェアクラフ理論によってメタ分析する」
(基礎理論)

同論文の目的は、フェアクラフの基礎理論が、探偵役の主人公の推理をどの程度記述・分析できるかを明らかにすることにある。つまり、フェアクラフ理論の有効性を試すことである。探偵役の主人公は、社会分析とディスコース分析を用いて事件を解決していくが、論文では、その推理をフェアクラフ理論を用いて記述・分析していく。なお、標題中の「メタ分析」とは、探偵の分析を、著者が分析するという意味である。興味深い点は、意味はテキストにのみ見出すことができるのではなく、違反や逸脱にも見出されるという指摘である。名探偵は、そこに注目しているらしい。

高木論文：「企業のウェブページにおける批判的談話分析」(ディスコース群)

同論文は、Japan Tobacco International のウェブページにおいて、事業に関する企業の理念や戦略がどのように提示されているのかを分析している。テキストにおける「危険性ディスコース」や「責任ディスコース」などのディスコース群の節合によって、企業の商品開発や社会への配慮という社会的実践がどのようになされているのか、喫煙と健康の観点においてどのような現実が構築されているのかが明らかにされた。そして、「たばこ」という商品を扱う企業のビジネス広報における営利性・公共性・社会性についての表象が示された。

相田論文：「New York Times の英日 Royal Baby 誕生報道記事の比較—伝達、インフォーマル化、ナラティブの観点から—」(基礎理論、スタイル)

同論文は、New York Times 紙が英日の royal baby (ジョージ王子と愛子様)誕生をその生誕翌日に報じた記事を、伝達の仕方、インフォーマル化、ナラティブの観点から分析し、その類似と相違を明らかにすることが目的である。フェアクラフの主張とは違い、伝達が必ずしも開放性をもたらさないこと、英王室にはインフォーマル化の意図が目立つが日本の皇室にはその傾向は皆無であること、ナラティブの構成には共通点がみられることなどの結論

を得ている。

仲西論文：「豪紙 *The Age* の社説に見られる説得戦術—オーストラリア社会における庇護希望者の問題—」(スタイル、ディスコース群)

同論文の目的は、庇護希望者の受け入れをテーマにした豪日刊紙 *The Age* の社説をフェアクラフ理論を中心に用いて分析することにある。世論が難民強硬策支持に傾くなか、庇護希望者の受け入れを訴える同社説が、いかなる手法を用いて、オーストラリア国民の説得を試みていたのか、その説得のための基盤となる価値観が何であったかを明らかにしている。多くの読者は、*The Age* が用いたその価値観の基盤を知って、納得するのではないだろうか。

富成論文：「五輪サッカー報道にみられるジェンダーとナショナリズム—2012年ロンドン五輪の新聞記事分析—」(ディスコース群、スタイル、コーパス分析)

同論文は、2012年ロンドン五輪のサッカーの日本の新聞報道において、日本の男子代表チームと女子代表チームの記事を分析することで、ナショナリズムとジェンダーの関係性を探っている。フェアクラフを中心とした批判的談話分析の理論を援用し、五輪期間中に発行された『読売新聞』の記事で使われていた語彙を中心に分析を行った。分析の結果、男子の記事と女子の記事では、ナショナリズムの描かれ方に違いが見られ、男子の記事のほうがナショナリズムを強調していることがわかった。この論文は、批判的談話分析という質的分析とコーパス分析という量的分析を融合した論文である。この種の論文は、日本ではあまり多くはなく、今後のこの種の研究にも光を当てることであろう。

稲永論文：「社説記事では少子化「問題」がどのように語られているのか—スタイル (styles) に焦点をあてて—」(スタイル)

同論文は、『朝日新聞』、『毎日新聞』及び『読売新聞』3紙の社説記事のオーサーが、「少子化原因ディスコース」、「少子化影響ディスコース」、「少

子化対策ディスコース」の三つのディスコース群において、どのようなスタイルを選択して、少子化「問題」に対する意見表明をしているのかを明らかにしている。結論として、ディスコース群(表象)の違いが、オーサーのスタイル(アイデンティティ)の違いとして表れていることを指摘している。

石上論文：「高校の英語教科書をディスコース分析する」(フェアクラフ理論全体)

同論文の目的は二つある。第一は、フェアクラフの理論を高校で使用されている英語の教科書に適用し、その英文を、細かく分析・記述することである。この分析を通して、読者のフェアクラフの理論への理解が深まることが期待されている。もう一つは、フェアクラフ理論による教科書分析を通して、教科書の内容ばかりでなく、ことばそのものの深さを実感してもらうことである。この論文では、フェアクラフの理論のさまざまな手法や適用方法などが多く紹介されているので、実際の授業にも資すると思われる。

私たちは、本書が用いている批判的談話分析という手法は、さまざまな“現実”を分析するために重要な役割を果たすと信じているし、さらに、ことばに関わる教育現場でも、生徒の理解を深めるのに資すると信じている。本書が、ことばに関する読者の皆様の理解をさらに深めることを願ってやまない。

最後に、本書の企画をご快諾いただき、最後までご尽力いただいたくろしお出版の池上達昭氏に深く感謝申し上げます。

石上 文正
高木 佐知子

ミステリー小説を フェアクラフ理論によってメタ分析する¹⁾

石上 文正

【キーワード】 差異(違反・逸脱)、秩序とカオス化、探偵小説、社会とことば

1 はじめに

ノーマン・フェアクラフ(Norman Fairclough)は、批判的ディスコース分析を主導する理論家で、数々の本を出版している。それらの本において、彼の理論は変化してきている。彼の比較的最近の著書のなかで、*Analysing Discourse* (2003) (邦訳『ディスコースを分析する』(2012))は、体系的に優れていると考えられる。とくに社会とことばの関係の基礎的な体系化、つまり、社会分析とディスコース分析の体系化が優れていると思われる。

本稿の目的は、フェアクラフの基礎理論を実際のディスコースに適用し、そのディスコースをいかに記述できるかを示すことにある。本稿では日本推理作家協会賞の受賞歴があり、2015年には2年連続ミステリー小説ランキング国内部門で3冠を達成したミステリー作家の米澤穂信の小説「心あたりのある者は」(『遠まわりする雛』角川書店、2007年所収)を分析対象とする。この小説は、高校生の主人公が、校内放送をディスコース分析と社会分析することによってミステリーを解決するというものである。他の小説に比

1) 本稿は、2013年3月10日、関西外国語大学における「日本メディア英語学会 西日本地区研究例会・三研究分科会合同シンポジウム」において「アニメ『氷菓』の主人公のディスコース分析の批判的ディスコース分析」と題して行った発表、および2014年8月30日、金城学院大学栄サテライトにおける「日本メディア英語学会夏季セミナー」において「社会と言語の一体化」と題して行った講義・ワークショップで配布した資料の一部を基にしている。